



東京ドームグループ
CSRミニレポート2007

東京ドームシティ環境保全対策マップ

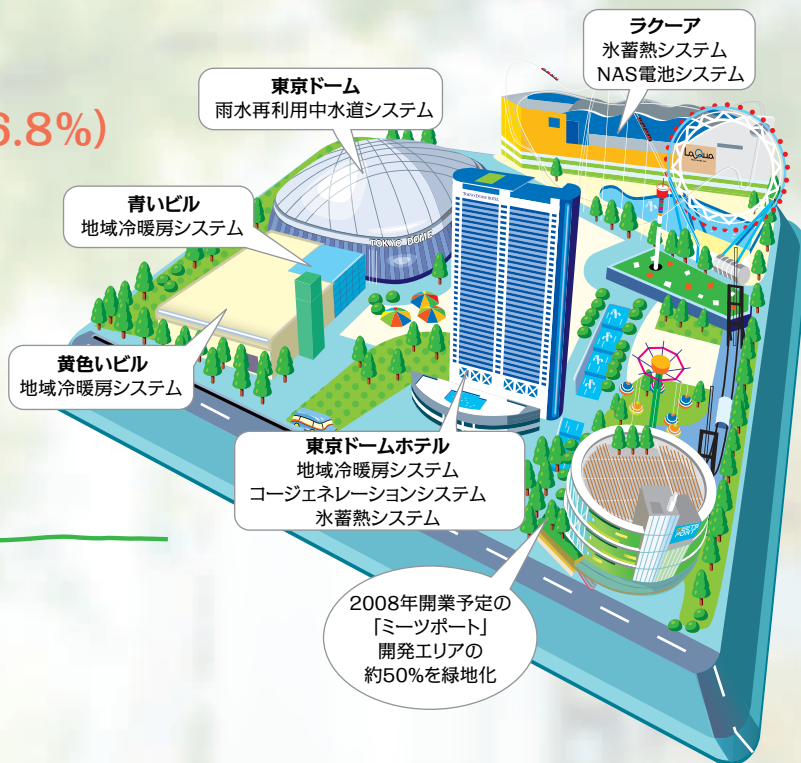
東京ドームシティでは
二酸化炭素排出量を
年間約3,200トン(約6.8%)
削減しています!

京都議定書における日本の温室
効果ガス削減目標である「マイナス
6%」達成のための「チーム・マイナ
ス6%」に、積極的に参加しています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

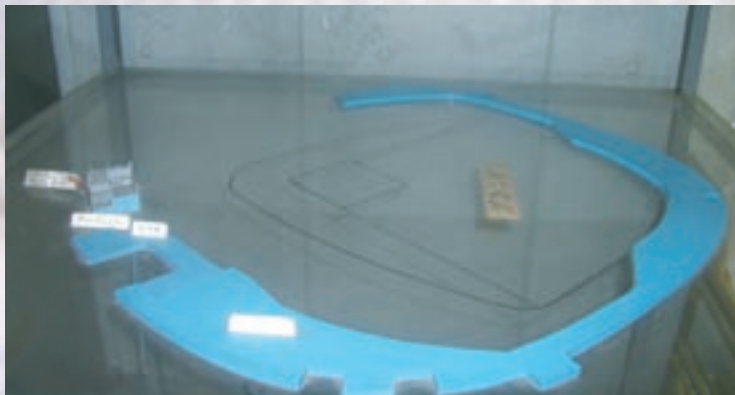


Activity: 1 東京ドーム

「雨水再利用中水道システム」

雨水再利用により、
水道水の使用を年間約68,000トン削減。

屋根の約半分(15,700㎡)に降った雨をスタンド席の下にある貯水槽に貯めたり、東京ドーム内の厨房の雑排水を貯めています。これらを処理し、東京ドーム内のトイレ用水として再利用しています。水道水の節約だけでなく、下水道に流れる雨水の量も減らすので洪水防止にも貢献します。



雨水貯蓄システムと中水道システム

Activity: 2 東京ドームホテル・黄色いビル・青いビル

「地域冷暖房システム」

下水熱の効率的な利用で、 二酸化炭素排出量を削減。

下水の排熱を有効利用して冷水や温水をまとめて作り、それをパイプで多くのビルに送り、冷暖房を行うシステム。東京ドームシティには、パイプでつながっている近くの東京都下水道局ポンプ所から冷温水が送られてきます。下水熱を再利用することで、化石燃料の使用量が減り、二酸化炭素の排出量を削減できます。



黄色いビルの下の地域冷暖房システム

Activity: 3 東京ドームホテル・ラクーア

「氷蓄熱システム」

二酸化炭素の排出量が少ない深夜電力を利用して冷房。

昼間に比べて二酸化炭素の排出量が少ない深夜の電力を利用して氷を製造、それを昼間に溶かして冷房に使用するシステムです。電力は主に昼間に消費されるので、深夜の利用は電力会社の設備などの負担も減らします。また、夜間は大気温が昼間に比べて下がるので、効率よく氷を製造できます。



氷蓄熱システム

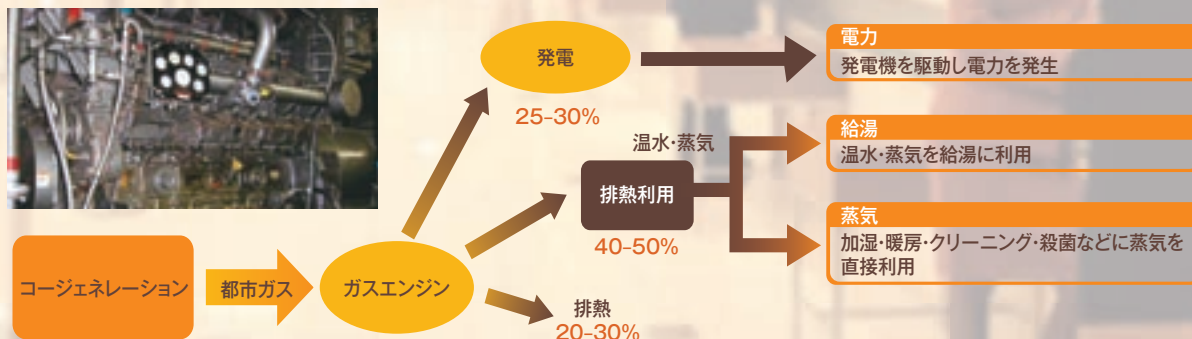
Activity: 4 東京ドームホテル

「コージェネレーションシステム」

廃熱を有効利用するシステムで エネルギー効率をアップ。

一つのエネルギーから、電気・熱など複数のエネルギーを同時に取り出すシステムです。東京ドームホテルは、ガスエンジンで発電機を動かして電力を供給すると同時に、排気ガスやエンジン冷却水の廃熱を給湯や暖房に有効利用しています。廃熱が廃熱でなくなり、エネルギー効率を飛躍的に向上させます。

コージェネレーションシステム



Activity: 5 ラクーア

「NAS電池システム」

夜間に電力を蓄えて昼間に使う NAS(ナス)電池を導入。

充電して繰り返し使えるナトリウム-硫黄電池 (NAS電池) に、夜間に電力を蓄え、昼間に使用するシステム。大量の電力を貯められるので、停電時も施設に電力供給できるメリットもあります。氷蓄熱システムと同様、夜間電力を使用するため、二酸化炭素の排出量を減らします。



ラクーアビルの地下の NAS 電池

Activity: 6 ミーツポート

「グリーンオアシス化」

中核事業場である東京ドームシティの 緑地化を推進。

ミーツポートは、計画敷地全体の約 50%を緑化する計画に基づき、環境に配慮した空間づくりを目指しています。3階デッキ部分を緑で埋めつくした、街のビルの中に浮かぶやすらぎの「空中庭園」は、東京ドームシティのある文京区および周辺住民の方々への地域貢献ともなります。



ミーツポートの空中庭園

東京ドームグループの地域社会への貢献

東京ドームグループでは、地域とのつながりや住民のみなさまとのコミュニケーションを深め、豊かな社会を築くために、文化事業や地域の美化活動など様々な取り組みを行っています。



地域の美化活動

(東京ドームシティ周辺の美化活動)



**財団法人野球体育博物館(文化事業)への
展示スペースの無償提供** (野球体育博物館)



地域在住の障害者・高齢者などの自社施設への招待※ (スパラクーア)

※ 65歳以上の文京区民が日本ハム戦の観戦・スパラクーア・フィットネスクラブ・ボウリング・アトラクションズを無料で利用できます。